

ヒアルロン酸注入治療における 安全対策の重要性

大慈弥裕之

福岡大学副学長 /
福岡大学形成外科主任教授 /
福岡大学博多駅クリニック形成外科

西田美穂

Beauty Tuning Clinic 美容調律診療所院長 /
福岡大学形成外科 /
福岡大学博多駅クリニック形成外科

ヒアルロン酸注入治療は、簡便で、また効果が出やすいことから、患者さんの施術希望は年々増加傾向にある。しかし、本治療を行う際には、基本的な知識に加えて、考えられる合併症とその対応法に対しての正しい知識をもつことが求められる。合併症を起こさないためにはどのような注意をすべきか、有害事象にはどのように対応すべきか、本領域に積極的に取り組まれている大慈弥先生、西田先生にお話をうかがった。

ヒアルロン酸製材を 使用する前に

- ヒアルロン酸注入治療が注目されていますが、患者さんからのニーズは増えているとお感じですか。

大慈弥 リフトアップを希望された際、以前は形成外科では手術を行っていましたが、いまは低侵襲な注入での施術を希望する患者さんが増えています。製材自体の安全性が高く保たれ、患者さんの信用を得たことも大きいと思います。

- 製材自体の安全性も高まったのですね。ヒアルロン酸にはいくつかの種類がありますが、どのような違いがあるのでしょうか。

西田 それぞれの製造技術や濃度により硬さやなじみやすさなどが違い

ます。そのため、注入部位や注入層に適した製材を選択しています。また、厚生労働省で承認されているか、承認されていないかという違いもあります。

- 承認品と、未承認品の違いについて先生方はどのようにお考えでしょうか。

大慈弥 まず大前提として、私は承認された製材を選択すべきだと考えています。ヒアルロン酸製材は医療機器であり、「クラスIV品目」に指定されています。日本で厚生労働大臣の承認を得るためには、製材自体だけでなく製造～輸送・管理まで、厚生労働省が定めた基準を満たさなければなりません。それだけ信頼性の高い製品を使用することは、治療の有効性・安全性の確保だけでなく、患者さんの美容医療への信頼をさらに高めることにつながると思います。また、未承認品にはさまざまな

